

若者の沖縄の言葉の使用および理解
—県内4大学に在籍する大学生の場合—

Young Okinawans' Usage and Comprehension of the Okinawan Language:

A Case Study of Students from Four Universities in Okinawa

尚真貴子 佐々木香代子 狩俣幸子

Makiko Sho Kayoko Sasaki Yukiko Karimata

Abstract

In order to check how young Okinawans use the Okinawan language and comprehend it, the survey, which consisted of one part where participants selected from multiple-choice answers and another where students supplied their own short answers, was conducted on 432 students from four universities in Okinawa. The study produced the following results: ① the Okinawa-Japanese dialect, Uchina yamato guchi, was used more than the Okinawan dialect, Hougen; ② Words within the Okinawa-Japanese dialect that originally came from Hougen were used less frequently; ③ When speaking Hougen, the subjects more frequently used dialect words that could be easily combined with Japanese words or words that could be used with standard Japanese; ④ Even when speakers intended to use Hougen, they tended to insert dialect words into standard Japanese sentences.

1. はじめに

留学生が沖縄の人々と円滑なコミュニケーションをとり、沖縄でより快適な生活を営むためには、一般的に行われている共通語の学習だけでなく地域の言葉を学ぶことが必要である。しかし、共通語を学ぶための教材は多く出版されているが、外国人が地域の言葉を学ぶための教材はほとんど見られない。そこで、筆者らは留学生が沖縄の生活習慣や文化、言葉を学ぶための教材を作成し、その教材に、留学生が日頃接する機会の多い沖縄出身の大学生が使用している沖縄地域独特の言葉づかいを取り入れようと考えた。しかし、最近の沖縄出身の若者がどのような沖縄の言葉を使用しているか基本的な資料がないことがわかり、第一段階として沖縄県内（以後、県内とする）4大学に在籍する大学生の調査を行うことにした⁽¹⁾。大学生の沖縄の言葉の使用および理解について、その状況を把握するために調査を実施し、その分析をまとめたのが本稿である。

2. 沖縄の言語的背景

沖縄に住んでいる若者が伝統的な方言を使えなくなっていることは、方言が滅亡の危機に瀕していることとあいまって必然的な状況にある。近年の沖縄の人々の言語状況を概略的に見れば、80歳代以上のお年寄りには伝統的な方言を話し、40歳代から70歳代の人々は伝統的な方言とウチナーヤマトゥグチを、10歳代から30歳代はウチナーヤマトゥグチと伝統的な方言を混合した言葉づかいをしているものと思われる。近年の言語の使用の実態を調査してはいないが、言語の使用状況について屋比久（1987）が「現代の沖縄はもう日本語への転移のプロセスの最終段階にきていると考えるのが妥当であろう」（1987：120頁）と述べているように、最近の沖縄に住む若者が日常的に話す言葉は、全国共通語化がかなり進んでいるものと思われる。大学生が学校教育の中で共通語を学びつつも、日常生活の中で話す言葉は全国共通語の中にウチナーヤマトゥグチやウチナーグチが混合したものであろう。それで、本調査ではウチナーヤマトゥグチと伝統的な方言を対象とし、大学生が日常使用していることばの使用の度合いを調査することにした。

ウチナーヤマトグチと言うのは、伝統的な沖縄方言ではなく、全国共通語でもなく、沖縄方言的な要素を含む言葉である。屋比久（1987）は「日本語と沖縄方言の接触が始まってから約百年がたち⁽²⁾、現代の沖縄はもう日本語への転移のプロセスの最終段階にきていると考えるのが妥当であろう」（1987：119-120頁）と述べ、「日本語が沖縄方言に取って替わる言語転移の過程において起こった様々な干渉又はその結果うまれてきた色々な言語作品等を含む多種多様な言語現象」（1987：119頁）をウチナーヤマトグチとしている。

また、真田（2001）はウチナーヤマトグチについて、「沖縄では、方言と標準語をめぐる葛藤の歴史のなかから、基盤である方言と習得目標である標準語との大きな隔たりの中間に、本来のウチナーグチにも、またヤマトグチにも見られない第三のバラエティー、ウチナーヤマトグチが生成された。これは、ヤマトグチとの接触、あるいは標準語習得の過程で、基盤方言の干渉を受けて生まれた沖縄独自の中間的言語変種である」（2001：70頁）と述べている。

さらに、真田（1993）は、「ある限られた地域だけで純粋方言の上にかぶさって広く行われる言葉があって、これを地域共通語と称することがある」（1993：206頁）と述べ、「地域共通語」を、「全国的に見れば方言であるが、一定の地域においては規範と考えられて使われる」（1993：206頁）ものとしている。

上記の観点を基に考えると、ウチナーヤマトグチは、伝統的な方言の影響を強く受け、全国共通語⁽³⁾とは意味・用法、語形の面で異なり⁽⁴⁾、沖縄本島を中心とする周辺離島地域で使用されている地域共通語であると言える。

3. 調査の概要

先ず、事前調査として記述調査を行い、その結果を基に本調査のアンケートの項目を検討した後、調査票を作成し、本調査を実施した。

3-1. 事前調査

下記のように簡単な記述調査を行い、本調査のアンケート項目を検討した。

実施時期	2008 年後期
対象者	琉球大学の学生 65 名
記述内容	県内出身者に対しては、「沖縄の言葉だと思って日頃使っている言葉」 県外出身者に対しては、「沖縄出身の人と話していて気になる表現」

上記調査で大学生（県内および県外出身者）が記述した語彙の延べ語数は490語、異なり語数は214語であった。214語のうち、複数回出現した語は65語（全体の約30%）あったが、そのうちの40%にあたる26語が親族名称や呼称、動植物名であった。これら26語以外の複数回出現した語を本調査の調査項目とした。

また、回答された語彙を検討したところ、県内出身者が使用する沖縄独特の表現があり、県外出身者の耳に残る表現や意味のずれ、あるいは意思疎通に支障を来す表現が見受けられ

た。例えば、『～ましようね』と言われると、誘われている気分になる』、『じょうとう』は、すごく良いと思いきや・・・』、『りんごしりしり』が?』(筆者解説:『りんごしりしり』というものがどのようなものかがわからないという意味)、『なんぎ』は、地元(県外出身者の出身地)ではお年寄りしか使わない』などである。

3-2. 本調査

3-2-1. 調査項目の選定

先ず、上記事前調査で複数回出現した65語のうち、親族名称や呼称、動植物名以外の語を本調査の調査項目とした。

その他に、大学生が日頃何気なく使っていると思われる方言、明らかに全国共通語とは異なる使い方をしてしているウチナーヤマトゥグチ、例えば、「～はず」、「～わけ」、「せまい」などを加えた。さらに、県内出身の大学生がどの程度使用しているのかがわからないウチナーヤマトゥグチおよび方言、例えば、「あるく」、「あわてない」、「あじくーたー」、「ちむどんどん」などを筆者らで選択した。これら選択した語彙を基に調査票を作成した。

調査項目として選択した語彙は58項目で、全てに例文をつけ、4つのスケールで評定できるようにした。選択した語彙は、ほとんどが全国共通語とは多少異なる意味・用法を持つウチナーヤマトゥグチで、加えて沖縄本島で使われる方言も用例をつけて調査項目として取りあげた。

スケールは、先ず、使う、使わないに大別し、使う場合は例文と同じ使い方かどうか、使わない場合は聞くことがあるかないかを考え、4件法とした⁽⁵⁾。大学生の場合、筆者らが想定する使い方とは異なる使い方をしてしている可能性も否定できないことから、スケール3「使うが、例文とは使い方が違う」を設け、スケール4「自分は使う」には()書きにして、「例文と同じ使い方」と書き加えた。4つのスケールは下記の通りである(スケールの順序は、調査票に同じ)。

4. 自分は使う (例文と同じ使い方)	3. 使うが例文とは使 い方が違う	2. 自分は使わないが 聞くことはある	1. 自分は使わないし 聞いたこともない
------------------------	----------------------	------------------------	-------------------------

さらに、上記スケールで評定する調査項目の他に、任意で記述する項目を最終項目に次のように設けた。大学生が自分たちの使っている(または聞く)言葉のうち、どんな言葉を沖縄の言葉として認識しているかを知るため、あえて「方言」、「ウチナーヤマトゥグチ」という言葉を使わず、「あなたがよく使っている沖縄の言葉」、「あなたがよく聞く沖縄の言葉」と指示し、事前調査で学生が回答したものを例としてつけた。この項目で大学生が「沖縄の言葉」として挙げた言葉を、分析の際、筆者らが「方言」「ウチナーヤマトゥグチ」「全国共通語」などに分類した。

「沖縄県内」出身者に聞きます。上記1)～58)以外の言葉で、あなたがよく使っている沖縄の言葉があったら、下記のように例をつけて書いてください。

例) このお弁当、あちこーこーだよ。(ほかほか、できたて)

「沖縄県外」出身者に聞きます。上記1)～58)以外の言葉で、あなたがよく聞く沖縄の言葉があったら、書いてください。

例) 死なすよ。(単に脅しているだけなのだろうが、「殺す」と言われるより、こわい!)

また、フェイスシートを付加し、本人の出身地および居住年数の他に、年齢、性別、両親の出身地、家庭の言語環境、家庭以外の言語環境などを書き込めるようにした⁽⁶⁾。

3-2-2. 対象者

2009年～2010年に県内4大学（沖縄大学、沖縄国際大学、名桜大学、琉球大学）に在籍する大学生（県内出身者および県外出身者）に調査票を配布し、432名から回答を得た。統計処理を行うにあたり、データに欠損（記入漏れ、無回答など）のある調査票を分析から除外したところ、有効回答件数は、334件になった。本研究では、このうち、「沖縄で生まれ、沖縄で育った」282件を統計処理による分析の対象とした。

なお、任意で記述する項目については、回答のあった240名（県内209名、県外31名）のデータを全て分析対象とした。

4. 分析と結果

4-1. 評定結果に基づく量的分析

4-1-1. 分析の対象

有効回答件数334件の内訳は表1の通りであるが、本研究は最近の沖縄出身の若者がどのような沖縄の言葉を使用しているかを調査することが目的であるので、「沖縄で生まれ、沖縄で育った」と回答した282名を分析の対象として統計処理を行った。

表1：出身地別回答件数

出身地	沖縄で生まれ、沖縄で育った	沖縄で生まれたが、主に沖縄県外で育った	沖縄県外で生まれ、沖縄県外で育った	合計
回答件数	282	11	41	334

4-1-2. 分析の方法と結果

分析は、SPSSversion18を用いて行った。「沖縄で生まれ、沖縄で育った」と回答した282名が各々の項目について「自分は使う」と評定した割合を値の高い順に示したのが表2である。以下、「自分は使わないが聞くことはある」の評定結果は表3、「自分は使わないし、聞いたこともない」の評定結果は表4である。「使うが例文とは使い方が違う」の割合は、1項目（13.5%）を除いて、全て9.9%以下であったことと、使い方が違う例文の具体例が示されていなかったため、今回は分析の対象から外した。

表2：「自分は使う」と評定した語の頻度順

割合	
90%以上	「じょうとう」「～はず」
80～89.9	「～きれない」「～わけ」「～わけ?」「なんぎ」「ふとんかぶる」「来る」
70～79.9%	「トイレする」「～ましようね」「食べれ、しれ」「～ながら」「せまい」「腐れる」「つける」「ちゃー」「やなー」
60～69.9%	「ゆんたく」「にりる」「ふとい」「たたかれるよ」「ふらー、ふりむん」
50～59.9%	「たんちゃー」「しかむ」「あわてない」「なおす」「あじくーたー」
40～49.9%	「がちまやー」「ちゅーばー」「いみくじわからん」「ちばりよー」 「ほうきする」「お昼する」「傘かぶる」「ゆくさー」
30～39.9%	「なんくるないさ」「めーごーさー」「とるばやー」 「歯ーぎしぎしー〔歯ぎしり〕」「じょーぐー」
20～29.9%	「よーがりひーがり」「がーじゅー」「いただいてください」「よむ」
10～19.9%	「がんじゅー」「ちむどんどん」「くわっちー」「よーがらー」「やすめる」 「弁当する」「あるく」
9.9%以下	「はーえーごんごん」「みーみーくーじー」「びーらー」「ちるだい」 「歯ーぎしぎしー〔悔しい〕」「うちあたい」「すかんする」

表3：「自分は使わないが聞くことはある」と評定した語の頻度順

割合	
90%以上	なし
80～89.9%	なし
70～79.9%	なし
60～69.9%	「がんじゅー」「ちむどんどん」
50～59.9%	「はーえーごんごん」「よーがりひーがり」「がーじゅー」「くわっちー」 「なんくるないさ」「めーごーさー」
40～49.9%	「がちまやー」「ちゅーばー」「いみくじわからん」「ちばりよー」 「みーみーくーじー」「いただいてください」「よーがらー」「とるばやー」 「歯ーぎしぎしー〔歯ぎしり〕」「じょーぐー」
30～39.9%	「たたかれるよ」「ふらー、ふりむん」「あじくーたー」「ゆくさー」 「歯ーぎしぎしー〔悔しい〕」「うちあたい」「弁当する」「あるく」
20～29.9%	「ちゃー」「ゆんたく」「たんちゃー」「しかむ」「あわてない」「なおす」 「ほうきする」「お昼する」「傘かぶる」「びーらー」「ちるだい」「安める」 「よむ」
10～19.9%	「トイレする」「～ましようね」「～きれない」「食べれ、しれ」「～ながら」 「～わけ」「～わけ?」「せまい」「腐れる」「つける」「なんぎ」「やなー」 「布団かぶる」「来る」「にりる」「ふとい」「すかんする」
9.9%以下	「じょうとう」「～はず」

表4：「自分は使わないし聞いたこともない」と評定した語の頻度順

割合	
90%以上	なし
80～89.9%	なし
70～79.9%	「びーらー」
60～69.9%	「すかんする」「ちるだい」「安める」
50～59.9%	「みーみーくーじー」「歯ーぎしぎしー〔悔しい〕」「うちあたい」「よむ」「弁当する」
40～49.9%	「はーえーごんごん」「あるく」
30～39.9%	「よーがらー」
20～29.9%	「ほうきする」「がんじゅー」「がーじゅー」「くわっちー」「じょーぐー」「傘かぶる」
10～19.9%	「お昼する」「いただいでください」「よーがりひーがり」「歯ーぎしぎしー〔歯ぎしり〕」「ちむどんどん」「にりる」「あわてない」「なおす」「ふとい」
9.9%以下	「じょうとう」「～はず」「トイレする」「～ましようね」「～きれない」「食べれ、しれ」「～ながら」「～わけ」「～わけ?」「せまい」「腐れる」「つける」「ちゃー」「なんぎ」「やなー」「布団かぶる」「来る」「ゆんたく」「たたかれるよ」「ふらー、ふりむん」「たんちゃー」「しかむ」「あじくーたー」「がちまやー」「ちゅーばー」「いみくじわからん」「ちばりよー」「ゆくさー」「なんくるないさ」「めーごーさー」「とうるばやー」

4-1-3. 評定結果の考察

1) 全体の傾向

- ・大学生が「自分は使う」と評定している語のうち、90%以上を占めているのは「じょうとう」と「～はず」であり、70～79.9%、80～89.9%を占めているのは「～ましようね」「～きれない」「食べれ、しれ」「来ながら」「～わけ」「～わけ?」「せまい」「腐れる」「つける」であるなど、ほとんどがウチナーヤマトゥグチである。一方、9.9%以下あるいは10～19.9%、20～29.9%を占めているのは、ほとんどが方言（「はーえーごんごん」「みーみーくーじー」「びーらー」「ちるだい」「歯ーぎしぎしー」「うちあたい」「ちむどんどん」「よーがりひーがり」「がーじゅー」「くわっちー」「よーがらー」「めーごーさー」「とうるばやー」「じょーぐー」）である。この結果から、ウチナーヤマトゥグチに比べ、大学生が方言を使用する頻度は低いことがわかる。
- ・調査した58項目の語彙の中で、「自分は使う」と評定した割合が9.9%以下の方言のうちの5つの語（「みーみーくーじー」、「歯ーぎしぎしー〔悔しい〕」、「うちあたい」、「すかんする」、「ちるだい」、「びーらー」）は、「自分は使わないし聞いたこともない」と答えた割合が50%以上である。一方、「自分は使う」と評定した割合が10%以上39.9%以下の方言（「がんじゅー」、「ちむどんどん」、「くわっちー」、「よーがらー」は10～19.9%「よーがりひーがり」、「がーじゅー」は20～29.9%、「なんくるないさ」、「めーごーさー」、「とうるばやー」、「歯ーぎしぎしー〔歯ぎしり〕」、「じょーぐー」は30～39.9%）は、「自分

は使わないし聞いたこともない」と答えた割合は決して高くはない（「よーがらー」を除き、9.9%以下あるいは10%以上29.9%以下）が、「自分は使わないが聞くことはある」と答えた割合は40～69.9%に達している。

これらの結果から、大学生の方言に対する消極的な姿勢が窺える。

2) 方言の使用について

- 社会的に、あるいはマスコミを通じてよく知られていると思われる方言、たとえば、「ちばりよー」「ちゅーばー」「なんくるないさ」「めーごーさー」「がんにゅー」については、「自分は使う」と評定した割合（「ちばりよー」「ちゅーばー」は40～49.9%、「なんくるないさ」「めーごーさー」は30～39.9%、「がんにゅー」は10～19.9%）と「自分は使わないが聞くことはある」と評定した割合が同じ数値か（「ちばりよー」「ちゅーばー」は40～49.9%）、より高い数値である（「なんくるないさ」は50～59.9%、「がんにゅー」は60～69.9%）。こうした語彙は、甲子園などスポーツ観戦に使われたり、テレビのCMに流れたりする等、大学生にとっても視聴する頻度が高いので、筆者らは大学生も使用していると推測していた。しかし、これらの語彙について「自分は使わないが聞くことはある」と評定した割合が40%以上で（割合が高い語彙では69%台に上り）、これに「自分は使わないし聞いたこともない」と評定した割合（9.9%以下あるいは20～29.9%）を加えると、これらの語彙は筆者らの推測に反して評定値が低かった。
- 「がちまやー」「くわっちー」「じょーぐー」「うちあたい」「なんくるないさ」などは伝統的な生活習慣や精神文化を反映する語彙と考えるが⁽⁷⁾、「自分は使う」と評定した割合が9.9%以下あるいは10～49.9%に留まっている。
- 方言のうち、「ちゃー」「やなー」は、「自分は使う」と評定した割合が高い（70～79.9%）。これらの語は、例えば、「ちゃー食べー」「ちゃー寝ー」「ちゃー飲みー」「やなー鉛筆」「やなー傘」など複合語の前要素に使われ、生産的な語彙である。「やなー」は、例えば、「この傘、やなー」「この鉛筆、やなー」など述語としてもよく使われる。
- 「はーえーごんごん」「みーみーくーじー」「歯ーぎしぎしー」「ちむどんどん」などのオノマトペは、「自分は使う」と評定した割合が低く（「歯ーぎしぎしー」（30～30.9%）以外は9.9%以下あるいは10～19.9%）、方言のオノマトペは調査語彙に限ってはあまり使われていない。
- 人の性格や特徴を表す「ふらー、ふりむん」「たんちゃー」「がちまやー」「ちゅーばー」「ゆくさー」「びーらー」「がんにゅー」「よーがりひーがり」「がーじゅー」「よーがらー」「とうるばやー」「じょーぐー」などの語彙は、「ふらー、ふりむん」と「たんちゃー」以外は「自分は使う」と評定した割合が50%以下である。

3) ウチナーヤマトウグチの使用について

- 全国共通語で使われる「名詞＋する」動詞とは異なる使い方が県内出身者に見られる。

ウチナーヤマトゥグチには全国共通語にはなく、沖縄出身者には気づきにくい、名詞と動詞「する」の結びつきがあり、例えば、「トイレする」「ほうきする」「そうじきする」のように、「する」をつけて使われる⁽⁸⁾。「トイレする」を「自分は使う」と評定した割合は70～79.9%、「ほうきする」「お昼する」は40～49.9%である。

- ・全国共通語と語形は似ているが、意味・用法が異なる「腐れる」「つける」「来る」「なおす」「かぶる」「あわてない」「たたかれる」「せまい」「ふとい」「じょうとう」などの動詞や形容詞は、「自分は使う」と評定した割合が50%以上である。
- ・全国共通語では、一段動詞および「する」動詞の命令形は、例えば、「食べる」、「しろ」だが、ウチナーヤマトゥグチでは、「食べれ」、「しれ」になる⁽⁹⁾。この活用形の使用頻度は高く、70～79.9%であった。
- ・ウチナーヤマトゥグチの中で「すかんすん」→「すかんする [嫌いだ]」、「やすみゆん」→「やすめる [安くする、値引きする]」などのように方言の形が元になってウチナーヤマトゥグチとして使われる語や、方言の語彙的な意味をそのまま引き継いでいて全国共通語にはない意味を表す「よむ [数える] (アンケートの質問肢では「よんで）」および「あるく [通う、仕事をする]」など、方言の影響を強く受けた語彙は「自分は使う」と答えた割合が9.9%以下あるいは10～29.9%である。

4-2. 記述回答欄の語の分析

4-2-1. 分析の対象

任意で記述する項目の回答者数は、県内209名、県外31名であった。「評定結果に基づく量的分析」の項では、県外出身者については分析の対象としなかったが、ここでは県外出身者の気になる言葉として取り上げた語にはどのようなものがあるのかを考察し、県内出身者と比較しながら分析することにする。

4-2-2. 分析の方法と結果

記述のあった語の中で同じ語彙と判断できるものは1つの語彙と考えた。

例えば、「痛い！」という意味の感動詞の表記は、「あが」、「あがー」、「あがっ」、「あが一つ」のバリエーションがあったが、1つの語彙と判断した。また、「しなさりん」は、「しなす」の活用形と考えられるので、1つの語彙と判断した。一方、「あふあー」「あふあーなこと」「あふあーする」については、品詞が異なるものとして、名詞、な形容詞としてそれぞれカウントした。この方法で全ての語彙や文をカウントすると、県内では235、県外では59の語彙や文が見られた。

1) 出現数の多い語彙

県内(表5-1)、県外(表5-2)ともに「でーじ〈副詞〉[ととも]」、「しに〈副詞〉[ほんとうに]」が1位、2位を占めた。その他、上位10位以内に入っている語彙で県内、県外共通

なものは、「やー〈名詞〉〔おまえ〕」、「あんまさい〈形容詞〉〔面倒くさい〕」であった。

表5-1：出現数の多かった語彙・文（県内、235の語彙・文中）

順位	語彙	順位	語彙
1位	でーじ〈副詞〉〔とても〕	6位	あふぁー〈名詞〉〔きまずい、恥ずかしい〕
2位	しに〈副詞〉〔ほんとうに〕		あんまさい〈形容詞〉〔面倒くさい〕
3位	～する〈する動詞〉	8位	～どー〈終助詞〉〔～ぞ、～だよ〕
4位	あがっ〈感動詞〉〔痛っ〕	9位	～だばー〈終助詞〉〔～なんだ、～なのか〕
5位	やー〈名詞〉〔おまえ〕		だーる〈感動詞〉〔そうだ、そうなんだ〕

※〈 〉内は品詞、〔 〕内は意味を表す。

表5-2：出現数の多かった語彙・文（県外、59の語彙・文中）

順位	語彙	順位	語彙
1位	でーじ〈副詞〉〔とても〕	4位	じらー〈感動詞〉〔～なんちゃって〕
	しに〈副詞〉〔ほんとうに〕		おばあ〈名詞〉〔おばあさん〕
3位	にりー〈名詞〉〔飽きること〕		あんまさい〈形容詞〉〔面倒くさい〕
4位	わー〈名詞〉〔わたし〕		～よ〈終助詞〉〔～ぞ、呆れた時〕
	やー〈名詞〉〔おまえ、きみ〕		～ばー〈終助詞〉〔～なの？〕

※〈 〉内は品詞、〔 〕内は意味を表す。

2) 品詞別出現数

出現した語彙の種類を品詞別に分類した結果、県内（表6-1）、県外（表6-2）ともに名詞が最も多く、全体に占める割合は、県内41.27%、県外38.98%であった。続いて動詞、感動詞が多く、県内と県外の傾向は同じであった。県内の場合、名詞で多かったものは、「やー〔おまえ、きみ〕」、「にりー〔飽きること〕」、「なんぎ〔難儀、苦労〕」、「はごー〔汚い、いやらしい〕」、「うっとう〔弟、年下〕」などである。動詞は、「かじゃーする〔臭いをかく〕」、「わじわじーする〔怒る〕」などの「名詞+する動詞」が多く、その他「死なす〔やっつける、脅し言葉〕」、「しかます〔驚かす〕」などがある。感動詞は、「あがっ〔痛っ〕」、「はっし〔あきれた時に言う〕」などである。県外の場合は、「にりー〔飽きること〕」、「わー〔わたし〕」、「やー〔おまえ、きみ〕」などの名詞、「ちばりよー〔頑張れ〕」、「ひんぎる〔逃げる〕」、「ばっぺーた〔間違えた〕」などの動詞、「じらー〔～なんちゃって〕」、「はっさ〔あきれた時、感動した時に使う〕」、「あがー〔痛っ〕」などの感動詞である。

表6-1：品詞別出現数（県内）

品詞	出現数
名詞	98
動詞	33
感動詞	20
副詞	16
形容詞	17
オノマトペ	11
疑問詞	8
終助詞	8
助動詞	4
慣用句	3
形式名詞	1
接頭辞	2
補助動詞	2
助動詞＋終助詞	1
形式名詞＋終助詞	1
な形容詞	1
助詞	1
副助詞	1
間投詞	1
接続詞	1
接尾辞	2
美称辞	1
補助形容詞	1
指示詞	1
計	235

表6-2：品詞別出現数（県外）

品詞	出現数
名詞	23
動詞	7
感動詞	9
副詞	4
形容詞	1
オノマトペ	0
疑問詞	0
終助詞	4
助動詞	2
慣用句	2
形式名詞	1
接頭辞	3
補助動詞	0
助動詞＋終助詞	1
形式名詞＋終助詞	0
な形容詞	0
助詞	0
副助詞	0
間投詞	0
接続詞	0
接尾辞	0
美称辞	0
補助形容詞	0
指示詞	0
意味不明で判別不可能 ^(1 0)	1
計	59

3) 語種別出現数

出現した語彙の種類を筆者らが方言か、ウチナーヤマトゥグチか、全国共通語との組み合わせかで分類した結果、最も多かったのは方言で、その出現率は県内85.53%（表7-1）、県外86.44%（表7-2）であった。

表7-1：語種別出現数（県内）

語種	出現数
方言	201
ウチナーヤマトゥグチ	22
方言＋全国共通語	6
外来語＋方言	1
全国共通語＋ウチナーヤマトゥグチ	1
方言＋外来語	1
全国共通語＋方言	1
沖縄風外来語 ^(1 1)	1
計	235

表7-2：語種別出現数（県外）

語種	出現数
方言	51
ウチナーヤマトゥグチ	6
方言＋全国共通語	0
外来語＋方言	0
全国共通語＋ウチナーヤマトゥグチ	0
方言＋外来語	0
全国共通語＋方言	1
不明 ^(1 2)	1
計	59

4) 語と文の割合

記述回答欄に回答された延べ語数は、県内577、県外115あったが、これらを単独の語か、2つ以上の語の組み合わせか、文かで分類した(表8)。「単独の語」とは、「だー〔どれ、ほら〕」、「じょうとう〔いい〕」、「しに〔とても〕」など意味を持った独立の語を1語のみで記述していたもので、「2つ以上の語の組み合わせ」とは、「でーじ うしえてる〔とてもバカにしている〕」、「ちーごーごーしている〔血が流れている〕」、「ちゃーたべー〔ずっと食べている〕」、「なかさよ〔泣かせるよ(脅し言葉)〕」など高い確率で共起する2つ以上の語の組み合わせ、独立の語+終助詞の組み合わせ、名詞またはオノマトペ+する動詞の組み合わせなどである。その結果、県内、県外ともに単独の語の回答が多かった(県内50.43%、県外78%)。

前述(4-2-2.3)の語種別出現数(表7-1, 7-2)では、方言の出現数が県内85.5%、県外86.4%と多かったが、文レベルの回答では、「えー やー ぬーよ〔おい、おまえ、なんなんだ?〕」、「あわていらんようい よんなー あつきよー〔あわてないで、ゆっくり歩きなさいよ〕」など全て方言で記述された回答数が県内11、県外0であった。「今日、湿気が高くて、むちゃむちゃする〔今日、湿気が高くて、べとべとする〕」、「ここに来ながら、飲み物買った〔ここに来る途中で、飲み物を買った〕」など、ほとんどが全国共通語と方言またはウチナーヤマトウグチを混ぜた文であった。

表8：語と文の割合

	割合(県内)	割合(県外)
単独の語	292 (50.60%)	90 (78%)
2つ以上の語の組み合わせ	142 (24.61%)	21 (18.26%)
文	143 (24.78%)	4 (0.03%)
総数	577	115

5. 考察

東江平之他(1983)が1980年～1982年に、名瀬市、本部町、那覇市、平良市、石垣市の各1地点で、中学生を対象に中学生の方言生活と方言理解度について調査を行っている。その結果によると、「あなたは方言だけで自分の考えや気持ちを十分に伝えることができますか」という問いに、各地点とも90%の中学生が「いいえ」と答えている。このことから、今から30年前に既に方言だけでは十分に自分の考えや気持ちを伝えることができない生徒が大多数を占めていたことがわかる。当時の調査対象者は、現在、40代半ばに達しており、大学生や高校生の親の世代にあたるが、親から子への方言の継承が衰退していると言われている。昨今、方言を理解し使用する世代がますます減少していることが考えられる。

今回実施した調査の統計結果では、「自分は使わないが聞くことはある」と回答した割合が高い語彙はほとんどが方言であり、「方言を聞けるが話せない」現在の沖縄の大学生の状況が窺える。その一方で、「自分は使う」と回答した割合が高い語彙はウチナーヤマトウグチ

チが多かったことから、本調査の統計結果からは最近の大学生は方言よりもウチナーヤマトゥグチを使用する傾向が見られると言える。

さらに、「あなたがよく使っている沖縄の言葉があったら、下記のように例をつけて書いてください」との問いに対して、方言を記述した学生の割合が高かった（85.53%）。これは、大学生が問いの「沖縄の言葉」を「沖縄の方言」と理解し、回答したためと思われる。記述した方言の半数（50.60%）が単独の語レベルでの回答で（表8参照）、品詞別に分類すると名詞が41.27%を占めた（表6-1参照）。また、文レベルの回答（24.78%、表8参照）の中で、全て方言で回答したものは143文中11文（7.6%）に過ぎず、全国共通語の中に方言あるいはウチナーヤマトゥグチを入れる文が多かった。このことから、方言は知ってはいるが、文レベルの発話には至らない若者の現状が窺え、大学生が日常使用する言葉の共通語化が進んでいることが推測できる。

なお、県外出身者の記述回答結果を見ると、「でーじ」、「しに」が最も出現数が多かっただけでなく、品詞別の分類では名詞が最も多く（38.98%、表6-2参照）、単独の語が多い（78%、表8参照）など県内出身者の結果と傾向が同じであった。このことは、大学生（県内出身者）の方言の使用が語レベルに留まっていることの裏付けと言えよう。県内出身者は、前述の通り、全国共通語の中に、全国共通語とは意味・用法や語形を異にするウチナーヤマトゥグチと方言を入れ込む形で発話している。それが、一見、全国共通語を話しているような印象を県外出身者に与える。が、実際には全国共通語とウチナーヤマトゥグチとの意味のずれ等によってコミュニケーションにギャップが生じている可能性がある。しかし、このギャップは、県内出身者にとっては気づきにくいだろう。

最近の沖縄出身の若者がどのような沖縄の言葉を使用しているかについて調べるのが本研究の目的である。前述の通り、ウチナーヤマトゥグチを使用する割合が高いが、方言においても使用する割合の高かった「ちゃー」、「やなー」は造語の利便性が高く、また、記述回答で出現数の高かった「でーじ」、「しに」は、共通語と組み合わせても使いやすいということが大学生に受け入れられていると考えられ、今後も使用されていく可能性が高い。

その一方で、「くわっちー」「がちまやー」「うちあたい」「なんくるないさ」「じょーぐー」など伝統的な生活習慣や精神文化を反映する語彙の使用は低かった。この結果は、方言が単に使われていないという問題だけではなく、その背景にある伝統的な生活習慣や精神文化が変化しているのではないかと考えられる。これら方言の他、ウチナーヤマトゥグチの中でも、例えば、「すかんする」、「やすめる」、「よむ」、「あるく」など方言の影響を強く受けた語彙は、単に「自分は使う」と答えた割合が低だけでなく、「自分は使わないし聞いたこともない」と答えた割合が40%台から80%台であったことから、今後も減少していく可能性がある。

6. おわりに

現在、沖縄ブームに乗って、例えば、かりゆしウェアの「かりゆし」、季節を表す「うりずん」、『はいさいおじさん』の「はいさい」、挨拶言葉で空港ロビーの横断幕にも書かれて

いる「めんそーれ」、美ら海水族館の「美ら」など、商品名、歌、公共の場所、店名、広告などに方言が使われ、沖縄県内で広く知れ渡っている。また、ゴーヤーなど、中には全国的にも知られている語彙がある。が、記述回答にはこうした語彙の記述が見られず、本調査では社会で知られているこうした方言が大学生の使用語彙の範囲に必ずしも入っているとは言えない⁽¹³⁾。社会的なブームは方言に対する興味・関心を引き起こすきっかけにはなるだろうが、それだけでは、本調査の任意で記述する回答結果から明らかになったように、全国共通語に方言を混ぜた形での使用に留まり、文レベルでの発話には発展しないだろう。

なお、本調査では、質問肢の調査項目それぞれについて、「方言」なのか、「ウチナーヤマトウグチ」なのか、「全国共通語」なのかの違いを対象者が認識しているかどうかは調査の対象に取り入れなかったため、大学生の意識がどうなのかについては筆者らには検討できなかった。

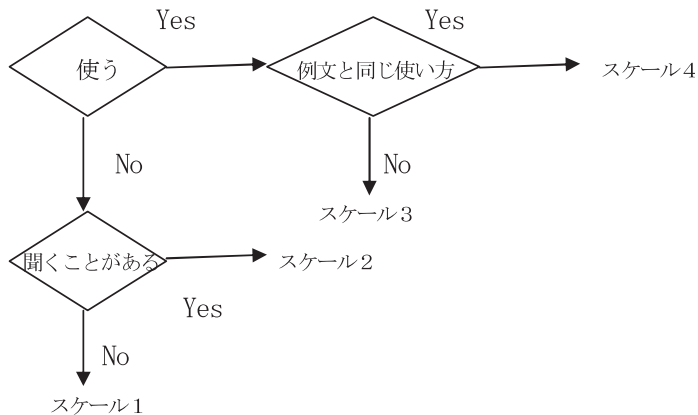
大学生が沖縄の言葉と全国共通語との違いを認識して使用しているのであれば県外出身者や留学生とのコミュニケーションに支障を来すことは少ないだろうが、明確な意識がなければ齟齬を来す可能性があるだろう。県内出身者が沖縄の言葉と全国共通語の違いを意識しながら使用することは、コミュニケーションを円滑にするだけでなく、言語生活をより豊かにするだろう。

そのためには、県内出身者だけでなく、県外出身者や留学生にもウチナーヤマトウグチの特徴や関連する方言の特徴についての体系的で集約的な学習が必要で、具体的な作業としては教育の現場で学習できる教材を開発・作成していくことが必要になるだろう。

(注)

- (1) 大学生は、その年代の若者の一部に過ぎず、大学生に対する調査結果は沖縄の若者の言語生活の現状を反映しているとは言えない。そこで、筆者らは、沖縄の若者の言語生活をより広く調査するため、科研費の助成を受け、沖縄本島および久米島の高校に在籍している高校生を対象に調査を行った(平成23年度～25年度科学研究費補助金基盤研究(C)「高校生の沖縄語使用についての調査・研究:消えていく言葉の中で何が残っていくか?」研究課題番号23520557、代表者:佐々木香代子)、現在、データの分析・考察中である。
- (2) 沖縄では、廃藩置県の1年後、明治13年(1880)に学校で共通語教育が始まった。
- (3) 『国語学研究事典』によれば、「国内に方言差があっても、それを越えて異なった地方の人々が意志を通じあうことのできる言語」を「共通語」と規定している。したがって、筆者らは「標準語」ではなく、国内全ての地域の人々が地域差を越えてコミュニケーションの手段として使用する言葉という意味で「全国共通語」という言葉を用いる。
- (4) 語形に関しては、例えば「～はず」「じょうとう」のように、形が同じだが意味または用法が異なるものもある。

(5) フローチャートで表すと、下記のようになる。



(6) しかし、本稿では、両親の出身地、家庭の言語環境、家庭以外の言語環境による考察は行っていない。

(7) 現代は飽食の時代で、「くわっちー [ごちそう]」が常にあり、珍しくなくなっており、「くわっちー [ごちそう]」という言葉を使う機会がなくなっただけでなく、「がちまやー [食いしん坊]」もいなくなっている。好きなものを好きなだけ食べられるわけではない時代に、それができる人に対して羨望あるいは揶揄の意味で「じょーぐー [～好き]」が使われた。上記語彙は、このような昔の生活習慣を表していると考え。また、悩みや災害に遭った時などに相手に対しても自分自身に対しても励ます言葉として、「なんくるないさ [なんとかなる]」が使われる。他人の話を聞いて、それが自分自身の事でもあると思う時に沖縄の人は「うちあたい [心当たりがあって、ズキッとくる] する」と言う。沖縄の人たちがかつては自然に持ち合わせていた精神性を表す言葉と考える。

(8) 沖縄で使用される「名詞+する」動詞の特徴（どのような名詞に「する」がつくか）については、本調査では明らかにできなかった。

(9) 本傾向は若者を中心に見られるが、他の年代でも使用されているので、一般的な傾向と考えられる。

(10) 意味、例文がないため、「まっさい」は判別できない。

(11) 沖縄では、ツナ缶のことを「とーなー」と言う。

(12) 意味、例文がないため、「まっさい」は特定できない。

(13) 身近すぎて方言とは気づかない、または全国共通語と見なしている可能性も否定できないが、対象者の語の認識については今回の調査対象とはしていないため、明らかにできない。

〈参考文献〉

- 東江平之,他 (1983)「中学生の方言生活と方言理解度」『琉球大学法文学部紀要』NO.26, pp.1-38
- 東江平之,他 (1983)『沖縄における言語生活および言語能力に関する比較・測定的研究』昭和55～57年度科学研究費補助金(総合研究A)研究成果報告書(研究課題番号531015)
- 内間直仁 (2002)「琉球方言の現況と将来」『国文学解釈と鑑賞』第67巻7号, pp.22-33.至文堂
- 大城朋子 (2001)「日本語学習者のための沖縄の地域共通語-地域に根ざした教材作成のための基本語彙に関するパイロット調査-」『日本語教育』108, pp.99-107
- かりまたしげひさ (2006)「沖縄若者ことば事情:琉球・クレオール日本語試論」『日本語学』25-1, pp.50-59
- かりまたしげひさ (2008)「トン普通語・ウチナーヤマトゥグチはクレオールか-琉球・クレオール日本語研究のために-」『南島文化』30, pp.55-65
- 北原保雄,編著 (1995)『概説日本語』朝倉書店
- 真田信治 (1993)『標準語はいかに成立したか』創拓社
- 真田信治 (2001)『方言は絶滅するのか:自分のことばを失った日本人』PHP新書
- 高江洲頼子 (1994)「ウチナーヤマトゥグチ:その音声、文法、語彙について」『沖縄言語研究センター研究報告3 那覇の方言I』pp.245-289.沖縄言語研究センター
- 高江洲頼子 (2002)「ウチナーヤマトゥグチをめぐる」『国文学解釈と鑑賞』第67巻7号, pp.151-160.至文堂
- 谷光忠彦,他 (1995)『日本語学』酒井書店
- ダニエル・ロング (2010)「言語接触論から見たウチナーヤマトゥグチの分類」『人文学報』428, pp.1-30
- 永田高志 (1996)『地域語の生態シリーズ琉球篇 琉球で生まれた共通語』おうふう
- 永田高志 (1999)「沖縄地方の地域方言と社会方言」『日本語学』11月臨時増刊号vol.18, pp.220-227
- 野原三義 (1996)「沖縄の若者言葉」『沖縄文化研究』22, pp.265-282
- 本永守靖 (1984)「明治期における沖縄県の国語教育」『琉球大学教育学部紀要』26集第1部, pp.59-86
- 屋比久浩 (1987)「ウチナーヤマトゥグチとヤマトウチナーグチ」『国文学解釈と鑑賞』第52巻7号, pp.119-123.至文堂

<資料>

1. アンケート調査項目一覧

※ 〈 〉内は品詞、〔 〕内は意味を表す。

調査項目		全国共通語	備考
1)	じょうとう	上等、すごくいい、すぐれてよいもの	全国共通語と変わらないが、沖縄では〔いい〕ということにも頻繁に使用する。応用範囲の広い言葉。
2)	トイレする	トイレに行く 用をたす	名詞に「する」をつけて動詞を作る場合に、全国共通語にはない語の組み合わせがある。
3)	すかんする	嫌いだ、嫌う	方言の「すかんすん」〔嫌う〕が元になっている。
4)	ほうきする (ほうきした)	ほうきで掃く	全国共通語にはない語の組み合わせ。2)と同じ。
5)	弁当する (弁当した)	弁当にする	全国共通語にはない語の組み合わせ。2)と同じ。
6)	お昼する	お昼にする	全国共通語にはない語の組み合わせ。2)と同じ。
7)	～はず	～はず	「はず」が述語に使われて話し手の判断を表す場合、全国共通語では、話し手は何らかの根拠に基づいて、当然そうであると判断したことを述べるが、ウチナーヤマトゥグチでははっきりした根拠のない場合にも、根拠がはっきりしている場合にも使われ、現実が話し手の判断と違ってよい。
8)	～ましようね	～ますね	全国共通語では、誘いの言葉であるが、沖縄では、「私は、～するよ」という意味で使用する。ウチナーヤマトゥグチでは、終助詞「ね」を伴い、話し手自身の意思を聞き手にソフトに伝える意味であるが、全国共通語を使用している聞き手は誘われていると解釈するので、誤解が生じる。
9)	あるく (あるいている)	通う、職業	〔通う、仕事をする〕等の意味で使用する他、習慣的な動作、くり返される動作を表す。学校に通うことは、「学校あるいている」と言う。漁師は、「海歩いている」と言う。
10)	～きれない	～られない	ウチナーヤマトゥグチでは、能力可能を表現する場合に「～きれん・きれない」を使う。例えば「英語話しかれる」、「自転車に乗りきれない」という言い方をする。
11)	いただいでください	召し上がってください	全国共通語で「いただく」は謙譲語で「私」の行為に対して使われる。ウチナーヤマトゥグチでは「いただく」を、尊敬語として使う人が少なくない。沖縄の方言では謙譲語が発達しておらず習得が難しく誤用が生じる。
12)	たたかれるよ	たたかれるよ (受け身)	そんなことをしたら話し手が聞き手を「たたくよ」という場合、ウチナーヤマトゥグチでは動詞の受身形を使って、「たたかれるよ」と言う。

13)	食べれ、しれ	食べる、しろ	動詞の命令形の作り方、一段動詞のグループと「する」動詞はウチナーヤマトゥグチでは、全国共通語の場合と異なる。一段動詞のグループは全て「ーれ」形で、「する」は「しれ」を使う。
14)	～ながら (来ながら)	～するついでに	全国共通語では「～ながら」は同時並行的に進行する動作を表すが、ウチナーヤマトゥグチでは、〔～時に/～途中、ついでに行う動作、同時並行的に行う動作〕にも使われる。全国共通語では「電車に乗りながら本を読む」と言った場合、乗る動作と、読む動作が同時並行的に行われることを意味することになるので、適切ではない。しかし、ウチナーヤマトゥグチでは(電車に乗って、座って(立ったまま)本を読む)という意味で理解する。
15)	～わけ	～の/んだ、 ～の/～んだよ	何かについて説明をしたりする場合等によく使われる。
16)	～わけ?	～の?	質問。理由や説明を必ずしも求めているわけではない。
17)	はーえーごんごん	必死になって走る ようす	「はーえー」は〔走り合い、走り競争〕の意味で、「ごんごん」は擬態語〔勢いよく進む様子〕である。運動会などの走り競争や、追いかっこ等を指す。
18)	みーみーくーじー	根掘り葉掘り	細かいところまで、詳しく聞いたり、調べたりすることを言う。また、人のあら捜しをするという意味でも使う。「みーみー」は(「みー」の暈語)〔小さい穴、欠点〕を意味する。「くーじー」は沖縄の方言で「くじゅん」(動詞)〔くじる。ほじくる。皮肉を言う〕の名詞形(連用形)である。
19)	よーがりひーがり	とっても痩せている やせ細っているようす	がりがりに痩せている様子を言う。「よーがり」は沖縄の方言で〔痩せていること〕を意味し、「ひーがり」は独立した意味はなく、「よーがり」に呼応させて、語をつくる要素になっている。
20)	歯ーぎしぎしー	歯ぎしり	ぎしぎしと音をたてて歯をかみしめること。「ぎしぎしー」はオノマトペ。
21)	歯ーぎしぎしー	悔しい	悔しいときや腹がたつ時などに我慢する様子を表す。怒ったり、悔しがったりした時、歯を強くかみ、すりあわせて音を立てること。「ぎしぎしー」はオノマトペ。
22)	せまい	きつい	ウチナーヤマトゥグチでは靴、スカートやズボン等が体に合わず、きつい様子を表すのにも使われる。

23)	腐れる	腐る	自動詞の形が全国共通語とは異なる使い方を するものがある。「腐る」とは言わず「腐れる」と いう。
24)	つける	洋服を着る、スカ ートをはく等	スカートやズボンをはいたり、服を着たりする ことをウチナーヤマトゥグチでは「つける」と いう。
25)	安める	安くする、値引き する	沖縄の方言の「やすみゆん」が元になっている。
26)	ちゃー	ずっと	「ちゃー食べー」「ちゃー寝ー」等、造語力の高い 接頭語として使われている。
27)	なんくるないさ	なんとかなるさ	沖縄の方言に「なんくる〈副詞〉」〔自然に、ひ とりでに〕という語があつて、よく使われる形 が「なんくるないさ」である。「ないさ」は〔な るよ〕という意味である。非常に困って手立て がない時に、自然にまかせれば、自然に解決が 見つかるという場合に使われる。〔悩み過ぎず、 前向きに考えれば、なんとかなる〕という時に 使われる。
28)	うちあたい	自分にも思い当た ることがある	全国共通語に訳すことのできない語の一つに「う ちあたい」がある。他人の言葉が自分の内心の 痛いところをつく、あるいは他人の言った言葉 が自分にも思いあたることだとしてショックを 受けた時等に使われる。「うちたいする」という 使い方が多い。
29)	がーじゅー	強情な人、私の強 い者、意地っ張り	人の性格や人のタイプを表している。 沖縄の方言は、名詞、動詞の連用形、形容詞の 語幹の語尾を長音にして「～の人、～する人」 を表す単語がつくられる。 また、ふりむん（〈名詞〉〔ばか者〕）のように、 むん（者）を後接させたり、うちなんちゅ〔沖 縄の人〕のように、っちゅ〔人〕を後接させたり して〔～の者、～の人〕を表す語もある。
30)	がちまやー	食いしん坊	
31)	がーじゅー（むん）	元気な人、丈夫な 人	
34)	たんちゃー	短気な人	
35)	ちゅーばー	強い人	
36)	とうるばやー	ぼんやりした人	
38)	びーらー	弱虫	
39)	ふらー、ふりむん	ばか	
42)	ゆくさー	嘘つき	
44)	よーがらー	痩せた人	
32)	くわっちー	ご馳走	

33)	じょーぐー	～好き	沖縄の方言では特定の食べ物を好む人のことを「～じょーぐー」という。「じょーぐー」の前に好んで食べる食べ物を加えて、例えば「さきじょーぐー〔酒好き〕」「すばじょーぐー〔そば好き〕」という言い方がなされる。
37)	なんぎ	苦勞、大変	ウチナーヤマトゥグチでは、〔難儀、苦勞〕の意味のほか、〔疲れる、嫌なことをして疲れた〕、という場合にも使われている。
40)	めーごーさー	げんこつすること	げんこつを額にくらわすこと。沖縄の方言。
41)	やなー	嫌な、悪い、醜い、性悪の、不正な等	「この傘、やなー」などのように述語や、「やな傘」、「やなわらばー」などのように接頭語としてもよく使われる。
43)	ゆんたく	おしゃべり	する動詞を付けて「ゆんたくする〔おしゃべりする〕」と、「ゆんたくさー〔おしゃべりする人〕」等のように使われる。
45)	ちむどんどん	胸がどきどきする	「ちむ」は沖縄の方言で内臓の肝をあらわすが、「ちむ」は〔心、心臓〕の意味があり、臓器の中で一番大事なものと考えられている。心臓の鼓動を「どんどん」というオノマトペを使って表現している。
46)	あじくーたー	(味に) こくがある	(味に) こくがあつて、おいしい時に言う。「あじくーたーだね」という言い方をする。
47)	いみくじ わからん	意味がわからないわけがわからない	「いみ わからん」ともいうが、強調の意味が加わって「いみくじ わからん」という言い方をする。
48)	ちばりよー	頑張つてー	応援したり、励ましたりする時に使われる。
49)	ちるだい	がっかりする	沖縄の方言「ちるだいすん」が元で、「ちるだいする」と、する動詞にして使う。
50)	布団かぶる (布団かぶって)	布団をかける	沖縄の方言で、布団、傘は「かんじゅん〔かぶる〕」と言い、方言の使用を反映している。
51)	傘かぶる (傘かぶりなさい)	傘をさす	
52)	しかむ (しかむな)	驚く	沖縄の方言「しかむん〔驚く〕」が元になっている動詞。
53)	来る	行く	「これからあなたのところへ行きます」という時、ウチナーヤマトゥグチでは「行く」を「来る」にする。「今、あんたのところに来るよ」という言い方をする。
54)	にりる	飽きる、人や食べ物などが嫌になる	沖縄の方言「にりゆん〈動詞〉」の語幹に「る」をつけたもの。

55)	あわてない (あわてないと)	急がない (と)	全国共通語では、「あわてる」は落ち着きを失った状態で何かをする様子を表すが、ウチナーヤマトゥグチには「急ぐ」という意味があり、例えば「あわてなさい」などと指示や命令に使うことができる。
56)	よむ (よんでみて)	数える	ウチナーヤマトゥグチで「よむ」という動詞は、物の数を「数える」という意味でも使われる。
57)	なおす (なおして)	片づける	西日本の地域で「直す」を、「片付ける」の意味で使うところがある。ウチナーヤマトゥグチでも、「直す」を「片付ける。修理する」の意味で使う。
58)	ふとい	厚い	沖縄の方言には「厚い」に対応する語はなく、ウチナーヤマトゥグチで「本などが太い」という言い方をする。
※ここで使っている沖縄の方言は沖縄本島中南部方言をさしている。			

2. 大学生に対する沖縄語調査票

沖縄語調査

このアンケートは、みなさんが日頃、沖縄のことばをどのように話しているか（または理解しているか）実態を把握するために行うものです。「正しい」とか「間違っている」といったことを問うものではありませんので、率直にお答えください。なお、考えすぎると答えられなくなりますので、直感的にこうだと思ふことを答えて下さい。

まず、あなた自身について伺います。

1. 出身地

- 沖縄で生まれ、沖縄で育った（ ） ←旧市町村を書いてください。
- 沖縄で生まれたが、主に県外で育った（ 歳の中から 県）
- 沖縄県外で生まれ、県外で育った（ 県）

※ a または b に○をつけた人で、親の転勤等の理由で複数の地域で育った人は、下記にその地域と居住年数を書いてください。

(旧市町村で答えてください)

地域名 (旧市町村)	居住年数

1. 下線が引いてあることばをあなたは使いますか？または理解できますか？それぞれの言葉について、4～1のスケールの中から最もあてはまる数字に○をつけてください。なお、「相手によって使い分ける」「時々使う」など、相手との関係や使う頻度は関係なく、使うか、使わないかについて、答えてください。

自分は使う (例文と同じ使い方)	使うが、例文とは使い方が違う	自分は使わないが、聞くことはある	自分は使わないし、聞いたこともない
4 _____	3 _____	2 _____	1 _____

	自分は使う (例文と同じ使い方)	使うが、例文とは 使い方が違う	自分は使わないが、 聞くことはある	自分は使わ ないし、聞いた こともない
1) お父さんの車、 <u>じょうとう</u> だね。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
2) トイレするから待ってて～。 <u>トイレ</u> したくて我慢できない。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
3) うちの子は、犬、 <u>すかん</u> する。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
4) 台風の後、庭、 <u>ほうき</u> (箒) した。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
5) きょうは11時半に <u>弁当</u> した。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
6) 早いけど、 <u>お昼</u> するねえ。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
7) よくわからないけど、あした結果がわかる <u>はず</u> 。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
8) 一足先に (私は) 行き <u>ましょ</u> うね。 (私は) 先に <u>弁当</u> 食べましょうね。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
9) A: あんたの <u>ところ</u> の長男、今何しているの。 B: 成人したけど、まだ学校 <u>ある</u> いているさあ。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
10) ビール5杯目だけど、もうこれ以上飲 <u>みきれ</u> ない。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
11) (客にむかって) これ、どうぞ <u>いた</u> だいてください。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
12) (母親が子供に向かって) 言うこと聞 <u>かなか</u> ったら、 <u>たたか</u> れるよ。(たたくのは母親)	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
13) これ、 <u>食べ</u> れ。早く、宿題 <u>し</u> れ。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
14) ここに <u>来</u> ながら、ケーキを買った。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
15) (相手に) 大根はこうやって切 <u>る</u> わけ。にんじんも切 <u>る</u> わけ。で、いっしょに炒 <u>め</u> るわけさ。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
16) A: このはさみ、明日、使 <u>う</u> わけ？ B: うん、使 <u>う</u> よ。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____

	自分は使う (例文と同じ使い方)	使うが、例文とは 使い方が違う	自分は使わないが、 聞くことはある	自分は使わな いし、聞いた こともない
17) 毎日、 <u>はーえーごんごん</u> して体きたえている。 運動会で、 <u>はーえーごんごん</u> した。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
18) 人の (他人) の事を <u>みーみーくーじー</u> (して) 聞 かないで。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
19) 長い間病氣してたから、 <u>よーがりひーがり</u> してるね。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
20) うちのお父さん、寝ている時、よく <u>歯ーぎしぎし</u> <u>二</u> するよ。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
21) 勝つと思っていたのに、試合終了1分前に1点入 れられて、 <u>歯ーぎしぎしー</u> した。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
22) 試着したけど、このスカート、 <u>せまい</u> さあ。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
23) 生ものは早く冷蔵庫に入れないと、 <u>腐れる</u> よー。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
24) デートにつける服がない。 風呂あがったら、早く <u>服つけなさい</u> よ。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
25) これ二つ一緒に買ったなら、 <u>安める</u> よー。 このテレビ代、少し <u>安めて</u> ください。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
26) お腹すいてたから、 <u>ちゃー食べー</u> した。 朝まで酒、 <u>ちゃー飲みー</u> した。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
27) 一人で大変だけれど、 <u>なんくるない</u> さ。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
28) Aさんが「あの人は気が利かない」と言っている のを聞いて、 <u>うちあたい</u> した。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
29) あの人は <u>がーじゅー</u> だから、何言っても聞かない よ。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
30) 親のいない間に、おやつを <u>がちまやー</u> する。 私は <u>がちまやー</u> だから、何でもよく食べるよ。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
31) 一年中風邪も引かないで、 <u>がんじゅー (むん)</u> だね。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
32) 今日は、 <u>くわっちー</u> だね。何かあるの？	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
33) 酒 <u>じょーぐー</u> 、そば <u>じょーぐー</u> 、ポーク <u>じょーぐー</u> 、 豆腐 <u>じょーぐー</u> 。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
34) いつもすぐ怒って、 <u>たんちゃー</u> だね。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
35) あの子、先生に反抗するとは <u>ちゅーばー</u> だねー。 マラソンで一番になったってよ、 <u>ちゅーばー</u> だね。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
36) この人は、 <u>とるばやー</u> で仕事があまり進まんさー。	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____

※「3」に○をつけた人は、どのように使っているか、例を書いてください。

	自分は使う (例文と同じ使い方)	使うが、例文とは 使い方が違う	自分は使わないが、 聞くことはある	自分は使わな いし、聞いた こともない
37) 若い時は、 <u>なんぎ</u> しなさい。 一人で教室を掃除して、 <u>なんぎ</u> だった。	4	3	2	1
38) 最近、体力なくて、 <u>びーら</u> なってる。 うちの子は <u>びーら</u> なって、すぐ風邪ひく。	4	3	2	1
39) あんたはこんなこともできないで、 <u>ふら</u> だね。 毎日遊んでばかりいて、 <u>ふりむん</u> なってるね。	4	3	2	1
40) 悪いこととして、親に <u>めごーさ</u> された。	4	3	2	1
41) あそこの品物は <u>やな</u> だから、買わんほうがいいよ。 この鉛筆、すぐ折れるから <u>やな</u> だね。	4	3	2	1
42) 私の友達は、 <u>ゆくさ</u> で困る。 あの人は、 <u>ゆくさ</u> だから信じられん。 あいつは、 <u>ゆくさ</u> だから信じたら駄目だよ。	4	3	2	1
43) 母は、今日も友達と <u>ゆんたく</u> して、夕飯を作っ ていない。	4	3	2	1
44) <u>よー</u> がらだね、あんた、ちゃんと食べているねー？	4	3	2	1
45) (好きな) 女の子にいきなり話しかけられて、 <u>ちむ どんどん</u> したさー。	4	3	2	1
46) うちのお母さんの料理は、 <u>あじく</u> ただよ。だ からあとで喉が渴くさー。	4	3	2	1
47) この問題、難しすぎて (何言っているか) <u>いみく じ</u> わからん。	4	3	2	1
48) <u>ちばりよー</u> ！絶対勝てよ～！	4	3	2	1
49) 今日はなんか当てが外れて、 <u>ちる</u> だいたさー。	4	3	2	1
50) 寒いから、しっかり布団をかぶって寝なさいねー。	4	3	2	1
51) 傘、 <u>かぶり</u> なさいよ。	4	3	2	1
52) このぐらいでしかむな。 人、 <u>しか</u> まさんで、まだどきどきしてるさー。	4	3	2	1
53) 今から来るから、そこで待っていてね。 (電話で) A:「今から私の家に来る？」 B:「わかった、今来るさ。」	4	3	2	1
54) (単純作業をしながら)「これに <u>りる</u> ！」 毎日、ソーメンばかり食べて <u>りる</u> よ。	4	3	2	1

※「3」に○をつけた人は、どのように使っているか、例を書いてください。

	自分は使う (例文と同じ使い方)	使うが、例文とは 使い方が違う	自分は使わないが、 聞くことはある	自分は使わな いし、聞いた こともない
55) <u>あわてない</u> と、間に合わんよ。	4 —————	3 —————	2 —————	1
56) このみかん、全部で何個あるか <u>よんで</u> みて。	4 —————	3 —————	2 —————	1
57) このコップ、食器棚に <u>なおして</u> 。	4 —————	3 —————	2 —————	1
58) こんな <u>ふとい</u> 本、すぐには読めないよ。	4 —————	3 —————	2 —————	1

※「3」に○をつけた人は、どのように使っているか、例を書いてください。

2. 「沖縄県内」出身者に聞きます。上記1)～58) 以外のことばで、あなたがよく使っている沖縄のことばがあったら、下記のように例をつけて、書いてください。&書ける人は、意味も書いてください。

例) **このお弁当、あちこーこーだよ。**(ほかほか、できたて)

3. 「沖縄県外」出身者に聞きます。上記1)～58) 以外のことばで、あなたがよく聞く沖縄のことばがあったら、書いてください。&書ける人は、例をつけるか、意味または解説を書いてください。

例) **死なすよ。**(単に脅しているだけなのだろうと思うが、「殺す」と言われるより、こわい！)